

事例から知る訪問看護の豆知識①



2回にわけて、事例から訪問看護師の役割や、訪問看護のポイントをお伝えしていきます！

～パーキンソン病と戦うAさん①～

■ Aさんの状態

Aさん：66歳、要介護度4、パーキンソン病（※要介護度4：日常生活全般に介助が必要な状態）

振戦と小幅歩行の症状が著しく、介助でベッドから離床するのがやっとの状態。

側で支えれば立つことはできるものの、転倒しやすい状況でした。

週に3回、セコムの訪問看護師がお伺いしていました。

■ 何気ない会話からのヒント

ある日訪問中の会話で、訪問看護師は気づくことができました。

「昔、日本舞踊の師匠だったのよ。だから普段から着物のときの歩き方になるの」

訪問看護師は、この着物を着た時の歩き方が、Aさんの「不安定で転倒しやすい」という状態に影響しているのではないかと推測します。

早速Aさんの歩行状態をじっくり観察してみると、内股で両膝を摺り寄せて歩いています。

パーキンソン病の歩き方の特徴だけでなく、まるで着物を着て歩いているようでした。

また、内股なので、立っているときの基底面積が狭く、重心が不安定になっていました。

転倒するのも無理はありませんでした。

ここがポイント！！



何気ない会話からその方の生活暦を知ること。

そして、その情報を先入観や思い込みを持たずに、（ここではパーキンソン病特有の歩行のことですね！）目の前の事実と照らし合わせて、客観的に活用していくこと。これが訪問看護師としての大切な視点ですね！

次回はこの事例の続きを見ていきましょう！